

コロナ禍の支部だより特集【第1報】

顔ぶれは変わっても埼玉西支部は伝統の根強い力があり、これまで毎月開催していた喫茶茶ルノアールでの作品展を六月から再開した。

八月からはいつもの会場が解放されたので勉強会を復活、五カ月ぶりに作品合評会、モデルのデッサン会を実施することが出来た。九月からは野外スケッチ会も再開する。埼玉西支部は現在二一名、平均年齢は高齢だが活動は永遠に続いて行くと思えます。

北海道支部

支部長 青山絹江

北海道支部長の委嘱を受けて

北海道支部長の退任により、この度委嘱をお受けすることになりました。高齢のこともあり、ためらいはありましたが、新日美の発展に少しでもお役に立てるならば、と、微力ではございますが努力してまいる所存にございます。

今年は新年早々新型コロナウイルスが猛威を振るい、未曾有の事態となつてしまいました。コロナ禍での自粛中、好きな絵で

ものんびり描いていこう、と思つたものの意欲消失してしまいました。目標に向かつて頑張つていくことのモチベーションがエネルギーの源になるのだと痛感いたしました。



阿寒湖のナイトウォーク「カムイルミナ」

五月には、以前師事していた阿部ススム先生が九〇歳でお亡くなりになりました。私が大賞をいただいた報告を先生にすると「新日美協会は公平協調性のある誠実な団体だから凄いことなのですよ。」と、一緒に喜んで下さったことが思い出されます。私といたしましても、新日美会にはたくさんの方の感謝と共に、な

栃木支部

支部長 増野 喬

コロナで本展、支部展が中止となり、地元の公募展やG展も軒並み中止、支部会員のモチベーションも下がり気味です。八月に入りやつと県展や私的な展覧会の開催の動きがあり、会員の中にもそれらに向けての制作を始めています。

会員の動きとして、蕪木委員が母校の中学校に油彩画を寄贈



切り絵教室風景 講師の湯澤委員(左)

し、さくら市長の立ち会う中で感謝状が贈呈され、地元の下野新聞や、産経新聞、讀賣新聞の地方版に掲載されました。又、湯澤委員はアトリエを兼ねた

ヤフリーを建て、新たな活動を始めました。

「私のこの一点」展には手続き方法にとまどう会員もいましたが、多数の会員が出品しました。今迄の本展作品とは違った傾向の作品が出品され、興味深い。今回の催しは新たな発表のあり方を示唆しているかも知れません。コロナ禍の中でも活発に制作活動を行っている会員も多い。支部展は二〇二一年四月に県総合文化センターで開催を予定しています。

「コロナ禍で出品の機会が減少しましたが、今一度立ち止まって、いままでの自己の作品を見直す機会を得たかもしれません。本展、支部展再開には新たな気持ちで取り組みたいものです。

会員異動

事務局

(令和2年7月以降)

柳本光敬	絵画会員	退会	7.16	付
阿部清明	絵画会員	退会	7.17	付
高木 登	絵画委員	→名誉会員	8.27	付
千葉 支部長	交代			
小宮山修	→石原 修		7.1	付
会計 交代				
小宮山修	→高岩正男		7.1	付
				以上